

# 地元の養殖漁業

## 寸劇風に解説

読もう!



県教育委員会の「SDGs推進人材育成事業」の2020年度リーダー校に指定されている宇和島水産高校（宇和島市明倫町1丁目）の生徒らがこのほど、地元小学生を対象に出前講座を開き、市内の養殖漁業や水産加工業について説明した。



児童の目の前で魚の解体を表演する宇和島水産高生

### 鶴島小で出前講座 マダイなど解体実演も



宇和島水産高の生徒が実演する解体ショーを見つめる鶴島小の児童たち

県教委は国連が掲げる「持続可能な開発目標（SDGs）」を理解し推進する人材の育成を目的に、東中南予から1校ずつリーダー校を指定している。各校は学校の特色や地域性を考慮し、目標を選択。達成に向けたプログラムを作成し、研究・普及活動に取り組んでいる。

宇和島水産高はSDGsの17目標のうち「質の高い教育をみんなに」「つくる責任 つかう責任」「海の豊かさを守ろう」などを掲げ、県と連携した養殖魚PRや地元の小・中学校と協力した体験学習などを進めている。

生徒は11日、同市文京町の鶴島小に出向き、養殖魚が東京の市場へ運ばれるまでの過程などを寸劇風に説明。6年生に説明。マダイとウマツラハギの解体を実演すると、児童はくぎ付けになっていた。

山下華奈子（12）は「市場に運ぶまでに真空パックに詰めるなどの工夫をしているなんて知らなかった」と感心。同高水産食品科3年の三好美咲さん（18）は「地元の魚や水産加工業について楽しく学んでもらおうと工夫した。次は児童らが宇和島の魅力を発信していく側になりたい」と話した。

（井上華菜子）